

17. 河川管理の課題と問題点

河川管理は行政と市民及びNPO、愛好会、守る会という組織が有機的に機能することが必要ですが、そこにはさまざまな課題があります。地域住民としては、河川への関心がなくなっていたり、観察するというような自主的なことが日常化していなかったりして何か学習する機会が必要な気がします。古くは河川の動きが暮らしに直結することだったのが、堤防やダムといったハード対策が進んで、関心が薄れてしまっていることに大きな問題点があります。それから、市民ともっとも接点が多いと思われる組織では先ず人材と財政に課題があります。活動の中心が高齢者や古くからの住民ということで、継承していく資源が不足していることに加えて、地域での暗黙知をどうつなげられるかということと、行政とのコミュニケーションも100%ではありません。今後はいかに行政への橋渡しをするのかということと地域力を醸成するのかということにもなります。

行政としては、市民が主体という意識の改革が必要で、何でもかかわらないといけないというような、過剰な管理者意識をなくすことが必要で、可能な限り支えていくというスタンスに変えるべきだと思います。地域のことはこれまでの歴史や住民が良く承知していることで、それに対して行政は財政支援、関係部署との連携、実施体制などについてコミュニケーションを通して影武者に徹することが必要だと思います。つまり、狭小な視点で悩まず、言い訳をしないこと、市民の目線で支えていくという姿勢が求められていると思います。

実際に改善するためには、①政策や予算に関する情報を公開すること、② unnecessary 費用の削減、慣例や事例の見直し、③NPOや地域団体の実力要請、人材確保、財政支援を広い視点で政策化する、④流域治水の考え方や背景を理解してもらうこと、⑤行政の役割への新しい発想と実践、⑥人材不足を広い視点から分析し、地域にかかわるための支援を企業ぐるみで取り組む、⑦住民の行政任せ意識を変えて、住民の主人公であるための施策を取り入れる、つまり関心を持ってもらうためのインセンティブを導入する などが必要だと思います。

「産」は働き方改革を実践して、地域へ貢献する、参加する時間を持ってもらう、「官」は管理力をアップし、地域とのコミュニケーションに努める、「学」は成果を公開して、実践への具体的な提案をする、「民」は地域資源や次世代のための取り組みを提案し行政支援を受ける。

地域の安全を守り安心して暮らすには、大きく2つに集約できると思います。一つは、河川の特性を維持させながら、暮らしと共生していくという流域治水の考え方を浸透させ実践すること。二つ目は、これまでの河川管理の作為効果について評価して解除、改修、保全をしていくということを同時に進行する必要があると思います。